



【戦評シート】

平成23年8月10日(水)	協会名： 秋田県 バスケットボール協会	
場 所： 琴丘総合体育館 (Bコート)	記入者： 鎌田 拓也	
チームA 一 関 (岩手1位)	55 { 11-26 12-13 14-20 18-13 } 72	チームB 津 軽 (青森1位)

スターター	チームA： #4, #7, #8, #10, #15
	チームB： #4, #5, #6, #7, #8
ディフェンス (試合開始時)	チームA： <input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 ()
	チームB： <input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 ()

第1ピリオド、両チームともにマンツーマンディフェンスでスタート。津軽は#6 木嶋の速攻で先制、#7 大高、#5 田山らが加点し、開始4分で16-2と14点差をつける。対する一関は#10 千葉のジャンプショットで得点するも、津軽の厳しいディフェンスに苦しむ。津軽は#6 木嶋がディフェンスリバウンドを制し、アーリーオフenseへ持っていくスタイルをとり、多彩な攻撃で得点を重ねる。結局#5 田山が3本の3Pシュートを決める活躍を見せた津軽が、26-11と15点差を付け第1ピリオドを終了。

第2ピリオド、津軽は1-2-1-1のゾーンプレスから1-1-3のゾーンディフェンスで相手のミスを誘うスタイルでスタート。一方、一関は序盤ゾーンディフェンスでインサイドへのパス、リバウンドに備え、反撃に臨む。しかし、互いに早いパス回しとドリブルでゾーンディフェンスの隙間をつき一進一退の攻防が続く。終盤に、オールコート2-1-2プレスを仕掛けるなど、多彩なディフェンスを見せた津軽が39-23と16点差のリードを保ち、前半を折り返した。

第3ピリオド、津軽はオールコートゾーンプレスで積極的に相手のパスミス、ドライブミスを狙い、#6 木嶋、#8 花田らが次々と加点する。対する一関も#13 八重柏のペネトレイトや#8 木村の3Pシュートで対抗するも思うように差を詰められない。余裕を持って攻撃した津軽が59-37とリードを22点に広げ、第3ピリオドを終了。

第4ピリオドに入っても津軽はメンバー交代をしながら試合を進める。一関は#13 八重柏、#8 木村らが3Pシュートで必死に食い下がるものの、試合の流れは変わらない。終始試合の主導権を握り、前半のリードを保った津軽が72-55で勝利し、決勝に駒を進めた。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。